

さいとう淳一郎の日々の街頭演説を、紙上でお伝えしています。

次の世代のために・・・

“子どもや孫たちが帰ってくるまちづくり”を目指して  
栃木県議会議員

## さいとう淳一郎街頭演説レター

第 18 号

発行日 平成 25 年 9 月 1 日

発行者 栃木県議会議員

さいとう淳一郎

〒329-2136 矢板市東町 3006-3

### 塩谷地区における救急医療を向上させよう！

救急医療現場の疲弊が全国的に大きな問題になっておりますが、矢板市を含む塩谷地区の救急医療も、他の地区と比較して大きく立ち遅れております。

塩谷地区はおとし、栃木県内の 13 消防本部の中で、119 番通報を受けてから救急車で病院に收容されるまでの平均時間が最も長く、48.1 分かかっています。前年と比較して 1.5 分短縮したものの、最も早い小山市とは 14.2 分もの差があり、6 年連続で最下位になってしまいました。

こうした状況のもとで、県では昨年 3 月に策定した栃木県保健医療計画（6 期計画）において、「119 番通報を受けてから病院に收容されるまでの平均時間」「病院への受入れ問合せ照会回数 4 回以上の割合」そして「現場滞在時間 30 分以上の割合」の 3 項目を全国平均以下とする、新しい数値目標を掲げました。

これらの数値目標を達成するためには、搬送時間ワーストワンの塩谷地区の体制を充実強化していくことが必要であり、また県内で、最も課題が多い塩谷地区において課題解決の方向性を見出すことは、本県全体の救急医療を前進させる、大きな第一歩になるのではないかと考えております。

私「さいとう淳一郎」は、昨年 9 月 27 日、そして本年 6 月 3 日の 2 回に渡って、県議会本会議において、この塩谷地区の救急医療問題を取り上げてきました。

その結果、県では本年度から「塩谷地区救急医療対策事業」という新しい事業をスタートさせ、塩谷地区の救急医療を向上させるための取組が具体的に協議されています。

こうした取組を通じて、塩谷地区における救急搬送時間が 1 分、1 秒でも短縮されることを期待しております。

また、矢板市では昨年 8 月、県の地域医療に係る県民協働事業費補助金を活用した「矢板市民の目線で考える救急医療」というイベントが開催されました。

私「さいとう淳一郎」は、この補助金獲得のお手伝いをさせていただきましたが、こうした取組を通じて「不要不急の受診を避ける」「かかりつけ医を持つ」「病診連携を理解する」といった、地域住民の皆さんの救急医療に対する意識を高めることで、直面する救急医療の危機を乗り越えていくことが必要だと考えております。